

# 〔Ⅲ〕 入門期の古典指導の試み

## — 漢文について —

齊 藤 真 子

中学における漢文教材の実態をふまえた上で、入門期の漢文指導をどう考え、実践したかその報告である。

### 1. 中学の漢文教材について

50年度版（5社）53年度版（6社）について、中学教科書には、漢文教材としてはどのような作品があるか整理してみると次のようになる。

#### < 50年度版 >

A（三省堂）B（光村図書）C（学校図書）D（東京書籍）E（教育出版）

#### （一） 故事成語

- 矛盾（韓非子） (D・E)
- 蛇足（戦国策） (D・E)
- 助長（孟子） (B)
- 守株（韓非子） (B)
- 假虎威（戦国策） (B)
- 推敲（唐詩紀事・野客叢談） (E)

#### （二） 漢 詩

- 黄鶴楼送孟浩然之広陵（李白） (A・C・E)
- 絶句（杜甫） (A・B・E)
- 春曉（孟浩然） (C・E)
- 贈江倫（李白） (B・C)
- 竹里館（王維） (B)
- （至）遊洞庭（李白） (D)
- 春望（杜甫） (D)
- 山行（杜牧） (A)
- 江雪（柳完元） (A)
- 勸学（陶潜） (A)

#### （三） 論 語

- 学而不思則罔，思而不学則殆。(A・B・C・D・E)
- 学而時習之，不亦説乎……不亦君乎。(A・C・E)
- 由，誨女知之乎……不知為不知是知也。(D・E)
- 子曰如之何……吾未如之何也已矣。(D・E)
- （温故而知新）可以為師矣。(B) A C
- 子曰我三人行必……而從之其不善者而改之。(A)
- 子曰吾十有五而……不踰矩。(A)
- 人無遠慮，必有近憂。(B)
- 過猶不及。(B)

- 見義不為，無勇也。(B)
- 德不孤，必有隣 (E)
- 子貢問曰，郷人皆……其不善者惡之。(E)
- 巧言令色，鮮矣仁。(E)

#### （四） その 他

- 桃花源記（陶潜） ——「桃花源」—— (E)
- 戦国策 ——「義をかう」—— (A)

#### < 53年度版 >

A～Eは50年度版に同じ。F（日本書籍）

#### （一） 故事成語

- 矛盾（韓非子） (B・D・E・F)
- 推敲（唐詩紀事） (B・E)
- 假虎威（戦国策） (B)
- 守株（韓非子） (F)
- 杞憂（列子） (F)

#### （二） 漢 詩

- 黄鶴楼送孟浩然之広陵（李白） (A・B・D・E)
- 春望（杜甫） (A・C・D・E)
- 絶句（杜甫） (A・B)
- 静夜思（李白） (A・C)
- 春曉（孟浩然） (B・E)
- 涼州詞（王翰） (B)
- 送元二使安西（王維） (C)
- 雑詩（部分）（陶潜） (C)
- 勸学（ ” ）（ ” ） (A)
- 偶成（ ” ）（朱子） (B)

#### （三） 論 語

- 温故而知新可以為師矣。(B・E)
- 学而不思則罔，思而不学則殆。(E・F)
- 德不孤，必有隣。(E)
- 学而時習之，不亦説乎……不亦君子乎。(E)
- 吾十有五而志于学……不踰矩。(E)
- 過猶不及。(B)
- 見義不為，無勇也。(B)
- 見賢思齊焉，見不賢者而内自省也。(F)

#### （四） その 他

- 桃花源記（陶潜） ——「桃花源」—— (E)
- 戦国策 ——「義をかう」—— (A)

また<50年度版>と<53年度版>をその収載量について比較してみると、

<50年度版>

	A社	B社	C社	D社	E社
(一)故事成語	0	3	0	2	3
(二)漢詩	5	3	3	2	3
(三)論語	6	5	3	3	7
(四)その他	0	1	0	0	1
計	11	12	6	7	14

A B EがC Dの約二倍である。

以上である。全体的傾向として、<53年度版>は<50年度版>に比べ漢文教材が減少しているといえるが(二)漢詩がどの出版社にも採られ、変動が少ないのに比べ(三)論語(A社において顕著である)がよくその減少傾

<53年度版>

	A社	B社	C社	D社	E社	F社
(一)故事成語	0	3	0	2	2	2
(二)漢詩	5	5	4	2	3	0
(三)論語	0	3	0	0	5	3
(四)その他	1	0	0	0	1	0
計	6	11	4	4	11	5

B EがA C D Fの約二倍である。

向をあらわしている。また、漢文教材の採録の方法として注目したいのは、(四)その他の戦国策である。「桃花源」が全文現代語訳であるのに対し、一部訓点文で漢文が採られ、教材化の方向に新鮮なものがある。

2. 中高漢文教材の関連性 (但し故事成語は省く) △は50年度・○は53年度

(一) 詩文類<詩>

( ) 内の数字は作品採用教科書数

作者	題	I 乙(13)	I 甲(22)	II (10)
王 翰	涼州詞	8	9	1
孟 浩 然	春 曉	5	3	3
王 維	送元二使安西	8	12	1
"	竹里館	4	5	4
李 白	贈江倫	0	3	2
"	黃鶴樓送孟浩然之廣陵	0	2	2
"	陪族叔刑部~至遊洞庭湖	0	0	1
"	靜夜思	4	5	1
杜 甫	絕 句	8	5	2
"	春 望	8	8	1
柳 宗 元	江 雪	10	9	2
杜 牧	山 行	5	6	2

○  
△  
○  
△  
△  
△  
○  
△  
○  
△  
△  
△  
△

<文>

陶 潜	桃花源記	6	7	0
-----	------	---	---	---

△  
○

(二) 經子類<論語>

( ) 内の数字は作品採用教科書数

冒 頭 部 分	I 甲(13)	I 乙(18)	II (8)
<学 而>			
子曰、学而時習之、不亦説乎	11	13	5
子曰、巧言令色、鮮矣仁	5	3	3
子曰、吾十有五而志于学	11	10	7
子曰、温故而知新、可以為師矣	8	8	2
子曰、学而不思則罔	9	11	3

△  
○  
△  
○  
△  
○  
△  
○  
△  
○

冒 頭 部 分	I 甲(13)	I 乙(18)	II (8)	
子曰，由，誨女知之乎	2	3	6	△
子曰非其鬼而祭之諂也見義不為	0	1	0	△ ○
<里 仁> 子曰，見賢思齊焉	0	0	2	○ △ ○
子曰，德不孤，必有鄰	0	0	2	○ △ ○
<述 而> 子曰，我三人行，必有，我師焉	0	0	5	△
<先 進> 子貢問，師与商也孰賢（過猶不及）	0	2	2	△ ○
<子 路> 子曰，君子和而不同	1	1	4	△
子貢問曰，鄉人皆好之	0	0	1	△
<衛靈公> 子曰，人而無遠慮，必	0	0	1	△
子曰，不曰如之何如之	2	0	7	△

(三) 史伝類<戦国策>

( ) 内の数字は作品採用教科書数

教科書タイトル	冒 頭 文	I 甲(5)	I 乙(5)	II (0)	
馬援市義	齊人有馬援者	0	1	0	△ ○

以下、気づいた点をあげてみると①中学教材は、すべて高校において教材としてとりあげられているものである。②例は少ないが、中学教材の中には、古典Ⅱでしか扱わないものもある。③中学においては、教材化にそれなりの工夫がみられる。(解説文つき、現代語訳等)④中学教材には教材内容相互の関連はない。(絶句→律詩への発展とか、「訓点のきまり」にはふれても「必要であれば」であるとか。)

3. 史伝教材をとりあげた入門指導の試み

(一) 入門期における指導留意点について

高3の生徒に漢文の良い点を自由に書かせた時、彼らは次のような点をあげた。①口調がよい。リズムがある。②漢字力がつく。③故事成語がよくわかる。④明治の小説を読む時役にたつ。⑤中国の思想文化が身近なものに。次に今困っている点については、①漢字はよめても意味内容がつかめない60%②漢文法43%③漢字がよめない39%④かなづかい29%の順であった。

この結果より以下の3点を指導留意点とした。

- (1) 「漢字・漢語」に対する抵抗感(旧字体への異和感・文字ばなれの世代)を意識させない形で、漢字に対する興味、漢文に対する面白さを引き出せないか。
- (2) 「訓読」の方法については、入門期に基本的事項

の練習をするが、送りがなを重視させる。

- (3) 漢文口調に馴れさせる。

(二) 生徒の漢文教材に対する興味順位

	1位	2位	3位	4位
史伝類	47	23	28	18
思想類	17	28	23	49
文章類	13	37	35	31
詩 類	41	30	31	16

史話・漢詩が最も多く好まれ、文章類・思想教材はあまり好まれていない。(本校紀要第17集Ⅲ漢詩教材の検討と生徒の意識より)

(三) 現行教科書(高校)における史伝教材

	I 甲	I 乙	II
史 書	11	14	10
十八史略	9	12	5
戦国策	5	5	0
資治通鑑	0	3	0
蒙 求	0	2	0
晋 書	0	1	0
說 苑	0	1	0
日記故事大全	0	1	0

数字は採用教科書数

日本における愛読の歴史の長い『史記』と『十八史略』がもっとも多く教科書に採用されている。分量も多い。

(イ) 『史記』の中でも、一番採用教科書の多い部分は、項羽本紀7(項籍者下相人也……冒頭文)である。具体的な数字をみると

I 甲	11/11社	I 乙	13/14社	II	5/10社
-----	--------	-----	--------	----	-------

(ロ) 『十八史略』の中では<五帝>帝堯陶唐氏(帝堯陶唐氏、伊祁姓……冒頭文)である。具体的な数字をみると

I 甲	2/9社	I 乙	6/12社	II	4/5社
-----	------	-----	-------	----	------

#### (四) 教材の問題

教材選定の理由 — 入門教材としては、漢詩が適切との意見もあるが(注1)、反面、限られた漢語によるイメージ追求は大変むずかしいものがあるともいえる。それ故、漢詩とともに生徒の興味度の並ぶ史話から、評価も定まっているし、故事成語「四面楚歌」の段を入門教材としてとりあげた。

#### (五) 「四面楚歌」による指導の試み(4時間)

(イ) プリント配布

(A)白文 (B)訓点文 (C)書き下し文 (D)訳文 の対比プリント。

(ロ) 歴史的背景の説明と簡単な解釈

(ハ) 漢字について説明

例 位置による品詞の変化 泣なみだ(名詞)  
泣キ(動詞)  
漢字はテニヲハを含む 項王の軍・項王  
異字同訓について みる 視 看 見 観  
なく 泣 鳴 啼 哭  
部首「馬」に属する字 馬 驚 駿

(ニ) 暗誦指導(1クラス1時間使用)

(ホ) 訓読の説明と練習 OHP、練習プリント 等

(ヘ) 白文に訓点をつけさせる。(テスト)

#### (六) 指導の反省と問題点

はじめに、指導後のアンケートの中より、一、二あげてみると、まず教材の適否についてであるが、内容

的に面白く読めたとしたもの40%、面白くなかったとしたもの39%、と相半ばした結果であった。比較すべきものが無いので、この数字をどう解すればいいか迷うのであるが、古い型の英雄項羽の人間像が、現代の高校生の生活実感から、いささか、離れたところに位置するという面もあろう。教室での反応は、結構興味を感じていたようにみえたのであるが。今回採りあげた部分は、評価の定まった人口に膾炙した名場面ではあるが、今後の課題としては、教科書には採られていなくても、現代の高校生に強くくい込みうる人物像、場面をとりあげていくという新教材発掘の努力が必要であると痛感した。第二に、漢文口調の体得という点をねらった暗誦指導であるが、表面的には反発を招いたかにみえたが、効果ありとしたもの68%、効果なしとしたもの18%との結果であった。効果ありとした者の多くが定期テストでの好成绩を理由としていた。又効果なしとした者の中で少数ではあったが、漢文に対して恐怖心をうえつけられたとしたものがいた。少数ではあっても、学びはじめて、漢文へのやる気をなくさせたのは、反省すべき点である。第三に教材の分量についてみると、絶句等を取りあげた入門指導に比べると多いといわざるをえないが、本来の史伝のまとまりを考えると、断片的にならざるとえないという二律背反がある。前後、内容についての史実、背景等を解説によって補っても、不十分の感はまぬがれない。そして、漢字数の多い事が、視覚的に生徒に抵抗感を与えてしまうという事、また限られた時間数の中で、説明にあまり時間はとれないという事等、どの程度の分量が入門期の生徒に対して適当であるか、今後試行錯誤を重ねてゆかねばならないであろう。以上、一貫性のない指導の一試みに過ぎないが、この経験を次年度からの漢文の授業の中に生かし、よりよい指導法への努力を重ねたいと思っている。

(注1) 鎌田正編「漢文教育の理論と指導」大修館書店 P.176

(参考資料)「高等学校古典教科書教材の調査研究」  
神奈川県高等学校教科研究会国語部会